

論壇

日本と変わらぬ品ぞろえ

流通業の調査でマレーシアのクアラ Lumpur に来ている。15年ぶりのクアラ Lumpur だが、この街も大きな変化を続けている。今回は流通業の調査ということだったので、特に印象が強かったのはショッピングモールなどの新しく巨大な商業施設が次々にオープンしていることだ。

近郊にあるイオンなどが運営するショッピングモールは、面積が40万平方メートルある。40万平方メートルと言われても分かりにくいだろうが、日本で最大級のショッピングモールの面積が22万平方メートル

伊藤 元重 (国際経済学) 学習院大学教授

消費と食のグローバル化

その倍近い大きさである。こうした大型のモールでも、クアラ Lumpur 近郊には複数ある。このモールの中には、イオンや伊勢丹などの日本の有名小売店も

出店しており、日本で目にするようなブランドの店は、全て出店していると言っても過言ではない。日本の食品も果物から加工食品ま

で、あらゆるものが並べられている。財や食品では国境の壁がますます低くなっている。ビジネスで成功

するためには、アジアという広い枠組みで考える必要がある。

われわれが訪問した時期には、ダウンタウンの別のところにある伊勢丹の店で、北海道物産展をやっていた。地元では人気だという。タイのバンコク、シンガポール、そしてクアラ Lumpur 場が近隣諸国に存在することを認

識し始めている。現地で店頭を見ると、その品ぞろえには驚く。例えば、日本酒の品ぞろえは、国内の専門店に負けないレベルだ。果物も人気があるようで、桃やメロンなどが並んでいた。値段は多少高いが、その新鮮さや品ぞろえは日本の高級スーパーに負けないようだ。静岡県の産品でも、こうしたものでは競争力のあるものが少なくないはずだ。

このモールには高級なホテルが隣接している。そこに中国から多くの富裕層がやってきて、買い物をするためにここに宿泊する。中国各都市とクアラ Lumpur の間には、多くの格安航空が飛んでいる。これを利用する人も

アジアとの競争 認識を

もう一つ印象的だったのは、近郊のショッピングモールの中に、高級なブランドの店を集めたセクシオンがあったことだ。さまざまな欧州のブランドや、世界の高級化粧品や時計などの専門店が集中している。その規模は静岡県内の

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。